

日本保健医療社会学会ニューズレター (No. 102) 2016/10/31

目次

1. 第42回大会報告
2. 第43回大会告知
3. 総会報告
4. 園田賞報告
5. 論文執筆支援ワークショップ at 東大の開催 (第2報)
6. 第1回理事会報告
7. 第2回理事会報告
8. 定例研究会の案内・報告 (関東)
9. 定例研究会の案内・報告 (関西)
10. 看護・ケア研究部会報告
11. 渉外・国際交流活動報告
12. 編集後記

1. 第42回大会報告

去る5月14-15日に追手門学院大学で開催された第42回大会は、224名の参加者を得て盛会裏に終えることができました。みなさまには交通の便の悪いなかはるばる本学までお越しいただきありがとうございました。運営面では、非会員も含む大阪大学・滋賀医科大学・関西学院大学の院生と教員、追大学部生と教員のみなさまにたいへんお世話になりました。また写真展に作品を無償で提供していただいた八重樫信之氏にもこの場を借りて御礼申し上げます。

大会テーマ「問題経験のナラティブをきく」の下、教育講演「薬害エイズの教訓から考える」とそれを踏まえてのシンポジウム「〈薬害〉のナラティブーその共有と継承」を初日に開催いたしました。講演者、コメンテーターのみなさまには充実したお話をおうかがいできましたこと、感謝申し上げます。



一般演題は、口演が24題(うち1題演者欠席のためキャンセルー下記参照)、ポスターが7題、RTDは9題でした。報告・話題提供者、司会者、フロアのみなさまのおかげで、どの会場も自由闊達な議論がなされました。

懇親会にも多くの方々に参加していただきましたが、お料理・飲み物とも少々不足気味でご迷惑おかけしました。が、それゆえに、あとであらためて街で飲み直し引き続き議論が展開することになったと報告してくださった方々もおられました。私は、'ケガの功名'だと少し安堵しました。



なお、前回の第41回大会より国際文献社の大会受付ヘルプデスクに業務委託を開始し、今大会よりその委託費用を大会会計から支出することにしました。当初、大幅赤字も予想されましたが、追手門学院大学からの補助のおかげもあって学会本体の会計からは僅少の支出で済みました。

〈今大会においてキャンセルされた演題〉

5月15日 一般演題/口演 第4セッション 制度

4-3 戦後直後の結核療養における看護力 —『結核看護心得帖』にみる教えから—

○程塚京子 (日本医療科学大学・東洋大学大学院博士後期課程)

(第42回大会長 蘭由岐子 (追手門学院大学社会学部))

2. 第43回大会告知

第43回日本保健医療社会学会大会は、2017年5月20日(土)・5月21日(日)に、京都の佛教大学にて開催されます。大会長は村岡潔先生(佛教大学)、実行委員長は香西豊子先生(佛教大学)、大会テーマは「健康/病をめぐる contestation」とし、大会長講演、特別講演、教育講演、さらにはランチョンセミナーなどを企画しています。大会プログラムの詳細や一般演題の募集、ラウンド・テーブル・ディスカッションの募集案内は、次号のニューズレターにてお知らせいたします。

(進藤理事：研究活動担当)

3. 総会報告

総会報告の詳細は、大部になりますので、末尾への別添とします。また会長より、前日に開催された理事会・評議員会の議論を受けて2016年の計画として、園田基金の活用を含めた若手研究者の育成、国際交流の更なる推進、科研費の今後の枠組み変更に伴う「医療社会学」の位置づけに関してパブリックコメントの提出を行うと共に会員への協力が呼びかけられました。

(清水理事：総務担当理事)

4. 園田賞報告

若手研究者の研究奨励を目的に2006年度に設置された日本保健医療社会学会奨励賞(2011年度より「園田賞」)の2015年度受賞者は、選考委員会による審査結果の報告を踏まえ、理事会で審議の上、以下の通り決定され、2016年度の学会大会の総会終了時に授賞式が行われました。

受賞者：岡田 翔子 (日本大学大学院)

受賞作：原著「利用者と保護者双方へのケアの論理 —知的障害者通所施設職員の語りから—

(『保健医療社会学論集』第26巻2号、pp.54-63、2016年)

2015年度園田賞は、この年度に発行された本学会機関誌『保健医療社会学論集』(第26巻)に掲載された若手研究者による論文(総説、原著、研究ノート)を対象にして選考されました。

5. 論文執筆支援ワークショップ at 東大の開催 (第2報)

日時：2016年10月16日(日) 13:00～16:30 (開場は12:45の予定)

場所：東京大学本郷 campus 医学部総合中央館(医学部図書館)3階、333会議室

http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_02_01_j.html

企画(参加者の様子を見て、企画内容を調整する可能性があります)：

- 13:00～13:05 主催者挨拶(含：進行についての説明)
- 13:05～13:25 第1報告 石川ひろの(東京大学)「論文執筆のプロセスとポイント」
- 13:25～13:45 第2報告 白井千晶(静岡大学)「共同研究で論文を書くやり方」
- 13:50～14:50 前半WSと班発表(発表5分+2分質疑) or
「査読コメントの典型例の提示とその読み方演習」
- 15:00～15:15 第3報告 樫田美雄(神戸市看護大学)「投稿リテラシーの向上が必要な理由」
- 15:15～16:10 後半WSと班発表(発表3分+2分質疑)
- 16:10～16:20 第4報告(総括的感想として) 齋藤圭介(明治大学)
- 16:20～16:30 まとめ(アンケートも御願います)。事後課題の相談(班別)
(樫田理事：学会誌編集担当)

6. 第1回理事会報告

日時：2016年5月14日(土) 9時30分～11時

会場：追手門学院大学 5号館 2階 5202教室

出席者：蘭会長、清水理事(書記)、樫田理事、石川理事、伊藤理事、進藤理事、田代理事、西村理事、細田理事

欠席者：中山理事

1. 第42回大会および総会についての確認(蘭)

蘭大会長より、別添資料にそって報告がなされた。また総会・評議員会の進行や議事についての確認を行った。

2. 研究活動委員会規程および運営の申し合わせ事項(蘭)

委員会規程において、大会の運営支援については研究活動委員会が主体的に企画運営する場合、または大会長の企画運営を支援する場合の両方に対応できる文言とし、大会長と協同して行う形とすることで承認され、後日、文言を修正し最終的に決定することとした。委員については、当面、研究活動担当理事のみで運営することとなった。

3. ニューズレター102号の配信について(清水)

次号ニューズレターを6月半ばで発行する予定であることが確認された。前期理事会において情報の集約の観点から、総務担当理事がニューズレターの担当をすることとなり、一定の成果もあったが、総務担当の用務が増え発行が遅れる傾向にあることから次期理事会に引き継ぐ際の検討課題とした。

4. 編集委員会報告(樫田)

別添資料にそって活動状況についての説明がなされた。また、今大会の教育講演やシンポジウムの関連記事を論集に掲載するのか、執筆依頼をするのかについての確認がなされた。

5. 定例研究会の報告(関東)

今年度も2、3回の開催を予定しており、昨年度実施した看護・ケア研究部会との合同開催を定例研究会は11月に予定しており、その他は検討であることが報告された。

6. 定例研究会の報告 (関西)

今年度も2回の定例研究会の開催を予定していることが報告された。

8. 渉外・国際交流活動の報告 (細田)

7月にウィーン大学で開催される国際社会学会の大会について情報提供がなされた。

学会の国際的な活動の推進の観点から海外から来る著名な社会学者等の情報を会員から集めて企画するや英語での発表を試みに行うなどの提案がなされた。

9. 特定個人情報保護規程について (清水)

別添資料に基づき、事務委託先に規程の実施に問題ないか確認を求め、問題ないとの返答があり、審議の上、規程として承認された。

10. 入退会者の承認 (清水)

別添資料に基づき、新規入退会者が承認された。

東日本大震災に基づく会費免除については継続することが確認された。被災状況の確認手続きのあり方、他の災害の被災者の取扱いや学生会員等の新設などについて、意見交換がなされた。

11. その他

研究活動委員会の発足に基づき、学会として大会や定例研究会をより計画的に実施していく必要性について意見交換がなされた。

大会の運営において、RTDと一般演題の募集時期が同じであるため、RTDにおいて採択されなかった企画の一部が一般演題として応募できるよう、申し込み日程の見直しについて意見交換がなされた。

評議員より情報提供があった科学研究費の審査基準の改革において、社会学の細目のあり方等が変更されることから、樫田理事、田代理事を中心にパブリックコメント案を作成し、会長名でコメントを提出することが改めて確認され、パブリックコメントの提出については評議員や会員向けにも呼びかけることとした。

以上

7. 第2回理事会報告

日時：2016年7月31日(日) 14時～17時

会場：(株)国際文献社 アカデミーセンター 4階会議室

出席者：蘭会長、清水理事、伊藤理事、進藤理事、田代理事、西村理事、細田理事、
樫田理事(スカイプにて参加)、
事務局 平野(記 国際文献社)

欠席者：石川理事、中山理事

1. 第42回大会報告・会計報告 (蘭)

蘭大会長より資料添付次第の通り、第42回大会の報告と会計報告があり、学会からの補助金の返金額と併せて承認された。

2. 第43回大会の準備状況の報告 (研究活動理事)

田代理事、西村理事、伊藤理事より研究活動委員長を進藤理事とすることが提案され、承認された。

蘭会長より、3月末に42回大会長として村岡大会長に引き継ぎ等の説明を行った後、今回の会議にあわせ資料添付次第の通り企画が届いたことが報告された。原則として中核的な内容について、土曜・日曜に開催する、追加・発展的な内容については研究活動委員会と共催で実施するなど諸々の理事会での協議結果を進藤理事より村岡大会長へ伝えることとした。

2. ニューズレター102号の発行 (清水)

清水総務理事よりニューズレター102号は9月初旬に発行とし、原稿締切を8月3週目までとすることが伝えられた。内容は5月理事会報告、総会報告、7月理事会報告を掲載することとした。

3. 編集委員会報告 (樫田・石川)

樫田編集委員長より資料添付次第の通り、5月開催の編集委員会の報告があった。

論集27巻1号については7月末刊行予定であったが8月初旬に発行することになったこと、編集委員会主催の論文投稿支援企画案内チラシを同封することが伝えられた。

J-stage掲載に対応する為、論文執筆要綱が資料添付次第の通り変更されたことが伝えられ、既に運用していることが報告された。

放送大学の教材として保健医療社会学論集の論文を利用したいとの申請があり、著作物利用料の金額は事務手数料を上乗せすることが提案されたが、今回のケースは利用ではなく引用の可能性があるので、継続審議となった。

5. 定例研究会の報告(関東) (田代・中山・西村)

西村理事より2016年度第1回定例研究会について、田代理事より第2回定例研究会について資料添付次第の通り、企画の報告があり、次号ニューズレターに案内を掲載することとした。

6. 定例研究会の報告(関西) (伊藤・進藤)

伊藤理事、進藤理事より今年度の計画は未定であることが伝えられた。年2回開催のうち1回は前回同様に大会のテーマと連動した企画を計画しても良いとの意見があり、村岡大会長へ提案することとした。

7. 看護・ケア研究部会報告 (西村)

西村理事より資料添付次第の通り2015年度会計報告と2016年度企画について報告があった。7月30日に開催された定例会の報告は次号ニューズレターに掲載することとなった。

8. 渉外・国際活動報告 (細田)

細田理事より資料添付次第の通り、7月10日から14日に開催されたISAフォーラムについて報告があった。その際にRC15のメンバーより、日本での会員拡大の為であれば交通費を自己負担とし、日本での講演が可能である申し出があったことが伝えられた。43回大会において国際セッションとして扱うことを村岡大会長へ提案することとした。

9. 入退会者の承認 (清水)

新入会3名(通常会員)が承認された。

10. その他

蘭会長より44回大会及び45回大会の大会長および開催校についての調整の状況が報告された。

11. 次回の理事会日程について

次回理事会については村岡大会長と香西大会事務局長を招いて12月頃開催で、日程は伝助に

て調整を行うこととなった。

以上

8. 定例研究会の案内・報告 (関東)

1) 第1回定例研究会のご案内

今回は看護・ケア研究部会との共催により、日本の人類学第一人者である菅原和孝先生（京都大学名誉教授）をお招きします。先生のご著書では、ブッシュマンの世界や伝統芸能の身体伝承など、異文化や言葉になりづらい側面を、フィールドワークを通して鮮やかに描き出されています。多様な場でのフィールドワーク経験から得られた知と、そのお仕事の背景にあるメルロ＝ポンティの思想、さらには理論的最先端についてもお話いただきます。

日時：2016年11月23日（水・祝日）14：00-17：00

場所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス 会議室B・C（予定）

*参加申し込み状況により、会場が変更する場合がございます

（〒101-0021 東京都千代田区外神田1-18-13 秋葉原ダイビル12階）

講演テーマ：「人類学の夢想とフィールドワークの経験」

講師：菅原和孝（京都大学名誉教授）

司会進行：西村ユミ（首都大学東京教授）

企画：

14:00～14:05 主催者挨拶：中村美鈴（自治医科大学教授）

14:05～16:20 ご講演

16:20～16:50 菅原先生とフロアーとの意見交換

16:50～17:00 まとめ

参加費：無料

申し込み方法：資料印刷・会場準備のため、ご参加希望の方は下記までお申し込みをお願いします。申し込み先：坂井 oshio040oshio (a) yahoo.co.jp ← (a) を@に代えて下さい。

メール題名：「日本保健医療社会学会 2016年度第1回定例研究会参加申し込み」

記載事項：氏名、メールアドレス、所属

締め切り：2016年11月9日（水）24時まで

2) 第2回定例研究会のご案内

日時：2017年3月5日（日）14:00-17:00（予定）

場所：未定（都内）

報告者：宇田和子先生（福岡工業大学）

指定発言者：本郷正武先生（和歌山県立医科大学）ほか1名を予定

タイトル：未定（食品公害の補償政策について）

（西村理事、田代理事：研究活動担当）

9. 定例研究会の案内・報告 (関西)

1) 第1回定例研究会のご案内

日時：2016年11月5日（土）14:00-16:00

場所：大阪市立大学梅田キャンパス・文化交流センター・（大阪駅前第2ビル6階）

アクセス：<https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/university/access>

話題提供：笠原聡子（滋慶医療科学大学院大学医療管理学研究科医療安全管理学専攻）

テーマ：医療の質・安全に向けたストレスマネジメントに関する業務分析的視点

司会：伊藤美樹子

今回の研究会で話題提供していただきたく笠原さんは看護系の研究者です。医療システムにおける最大のリスク要因でありストレス要因でもある「業務」をどのように捉え、マネジメントすればいいかという視点から話題提供をしていただきます。医療安全における新しいアプローチであるレジリエンス・エンジニアリングについても触れていただく予定です。

問い合わせ先：伊藤美樹子 itmkk@belle.shiga-med.osaka-u.ac.jp

2) 報告

日時：平成28年3月5日（土）15:00～17:00

場所：大阪市立大学梅田キャンパス・文化交流センター・小セミナー室（駅前第2ビル6階）

テーマ：大会シンポジウム連携企画「〈薬害〉経験のナラティブをきく」

1. 大阪の血友病患者会はどのように問題経験を切り抜けたか — 四半世紀を振り返って

発表者：若生治友（大阪ヘモフィリア友の会）

2. 血友病患者会全国組織の再始動

発表者：佐野竜介（ヘモフィリア友の会全国ネットワーク）

要旨：関西定例研究会は、薬害問題を取り上げた第42回大会（大会長：蘭由岐子）のメインテーマ「問題経験のナラティブをきく」と連携するテーマとして企画し、薬害HIV事件の経験について報告していただいた。

若生さんからは、HIV 感染禍に血友病患者会が対処不能になり、かつ活動しにくい状況があった1990年代初頭に、HIVのNGOとして血友病患者並びにその家族の支援団体を立ち上げ、この際、運営に患者・家族以外のいろいろな人を巻き込んだことにより、実質の主体は患者であったが、医療機関の紹介、入院や通院介助、訴訟準備、面談などの活動がやりやすくなったことや、阪神大震災、薬害 HIV 訴訟和解後の国との医療体制整備、神戸での薬害エイズ国際会議（1996）などの経験を踏まえて、その時々の問題や課題に取り組みやすいのか、ふさわしいのかを考えて、それに対応しやすい組織や構成員で対応することが問題経験を乗り越えていく戦略として紹介された。佐野さんからは、HIV 禍の影響で、患者会の主たる会員の体調不良や死亡、強烈的な偏見差別で活動しにくくなるなどにより、全国的に活動停止に陥った状況があったことが紹介された。佐野さんは、転居により転入先の地域の患者会の戸を叩き、その地域での「HIVのゴタゴタを知らないことが良かったのかもしれない」という立場で、主として2000年以降の各地域のローカルな患者会活動や、各組織の主体性を尊重して緩やかにつなぐという新しい関係での全国血友病患者会組織の再組織化、活動のための資金の獲得や、活動を推進する上での資金提供者との自律的な関係について報告していただいた。参加者は23名。

（伊藤理事：研究活動担当）

10. 看護・ケア研究部会報告

1) 看護・ケア研究部会 7月定例会報告 要旨

日時：7月30日（土）14:00～16:30

場所：首都大学東京荒川キャンパス 校舎棟 364 教室

発表者：横山正子さん（神戸女子大学）

発表テーマ：「地域医療介護における期待される介護福祉士のキャリアパスとは」

要旨：地域包括ケアシステム推進政策における介護サービスの提供者である介護職の質・量の確保が喫緊課題となっている。現行の介護福祉士資格制度の「頂を上げ、裾野を広げる」とは政府の考え方である。そこで職能団体、養成施設協会、大学教育連絡協議会といった関係機関がそれに応じて介護福祉士の上位資格をそれぞれが提案した。本報告は介護福祉士の置かれている法的立場や現状、社会ニーズとしての介護内容の重度化・複雑化（医療的ケア含む）、国際化、また、段位制の活用での職能評価などの視点で、それらの提案するキャリアパスとしての各上位資格を検討するのが趣旨である。質疑応答では介護職や介護福祉士への期待を感じる多くの質問、上位資格やキャリアパスに留まらない報酬や介護職の在り方に及ぶ研究課題のご助言を賜った。しかし、介護福祉士集団の社会的発言力の弱さにも問題があることを実感した。

(西村理事：研究活動担当)

1 1. 渉外・国際交流活動報告

国際社会学会 (ISA) の RC15 理事会より、日本の会員名簿管理の依頼がありました。RC15 では、ISA の大会ごとにビジネスミーティング並びに懇親会を開催していますが、必ずしも RC15 会員全員に開催通知が届いている訳ではないことが報告されました。つきましては、本学会会員で ISA の RC15 会員の方で、2016 年ウィーン大会のビジネスミーティングや懇親会のお知らせが来なかった方がいらっしゃいましたら、国際交流・渉外までご連絡ください (担当：miwhosoda@seisa.ac.jp)。

(細田理事：国際交流・渉外担当)

1 2. 編集後記

- ・本来は 5 月の学会後に発行するはずであったニューズレターの発行が大変に遅れ、秋に発行する号との合併号となり、大変申し訳ありませんでした。一部のご案内も記録として残しております。今後の対応については改めて理事会でも協議してまいりたいと思います。
- ・今年度は次期役員選挙も予定されております。投票の要件となりますので、会費の納入がまだの方はお早めに納入して下さるようお願い致します。
- ・日本保健医療社会学会ニューズレターは第 92 号からは pdf ファイルのメールマガジン形式で配信しています。もしメールマガジンの文字が読めない場合などの受信に問題がある場合は、恐れ入りますが、日本保健医療社会学会事務局 (下記) まで御連絡ください

<http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm>

(清水理事：総務担当)

発行：日本保健医療社会学会

編集：総務担当 (清水準一)

学会事務局：

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

jshms-office@bunken.co.jp

TEL：03(5389)0237

日本保健医療社会学会ニューズレター (No. 102) : 別添

総会報告

議長に山田富秋会員が選出され議事が進行され、すべての議案が承認された。以下、要点を報告する。なお、第5号議案により名誉会員となった米林喜男会員には、学会より記念盾を贈呈した。

(事務局の不手際により総会に提示された2016年度予算案の前期繰越額に誤りがあったため、改めて正しい金額に直した予算書を提示いたします。なお総会では、修正した金額で承認を得ております。)

第1号議案:2015年度事業報告

1. 学会事務担当前任者の不祥事について

蘭会長より、以前に発生した事務委託先での担当者の横領のその後の状況について報告された。

2. 学会長より:

学会長の担当事項、および、理事の分担を超えた全体的事項について報告する。

(1) 2016年度第42回大会の開催

5月14、15日に追手門学院大学にて開催することになった。学会長が大会長を兼ね、かつ、事務局長も兼ねるといった事態となったが、運営面で伊藤美樹子理事(前大阪大学・現滋賀医科大)と佐藤哲彦評議員(関西学院大学)の各ゼミ、および、非会員の追手門学院大学教授諸氏のサポートを得て開催にこぎつけることができた。みなさんに感謝申し上げる。

(2) 大会への理事会の関与のあり方について

本大会開催に際して、大会引受側と理事会の業務分担の新たなあり方を検討して実行された第41回大会のやり方をほぼ踏襲し、参加費振込口座の開設・管理、一般演題報告・参加受付、大会ホームページの作成等の業務を国際文献社に委託するとともに、『論集』特別号(抄録集)の編集は大会校でおこない節約に努めた。また、委託業務の経費を大会開催校会計から支払うこととした。

(3) 研究活動のさらなる活性化に向けて

前期理事会からの引き継ぎ事項でもあったが、研究活動の増進とともに、大会への理事会の関与を高め、研究活動の一環に組み入れられるよう、研究活動委員会を組織することにした。

(4) 学会財政の安定確立に向けて

昨年度総会の事業計画では「中期的に、かつ着実に、学会運営上、健全な水準の予備費(繰越金)の積み上げに至ることを目標に、収入と支出の両面にわたり、健全な財政構造の確立に努める。」とし、この方針に沿って運営を行った。また2016年度予算案の検討にあたり、大会運営委託業務費の扱いや繰越金と予備費を分割するなどして、繰越金額が予測しやすくなる工夫を行った。

3. 研究活動担当理事より(関東、関西、看護・ケア研究部会):

(1) 定例会・研究部会について

定例研究会を関東2回(内1回は看護・ケア研究部会との共同開催)、関西2回開催した(詳細はホームページにて公開)。これらに対して、学会から財政的な支援がなされた。関東定例研究会と看護・ケア研究部会との共同開催は、役割分担等もスムーズにでき、研究会も盛況であった。

(2) 学会大会企画について

2016年度の大会では、昨年度に引き続き、大会校の負担軽減のため、ラウンド・テーブル・ディスカッションの応募企画の承認、一般演題のセッションの割り振りと司会者の依頼等を行い、また申込手続きを国際文献社に依頼した。また、大会シンポジウムテーマと定例研究会テーマを連動させる企画を設定し、施設使用方・部屋の割り振り・スタッフ配置など大会運営に関して大会長と研究活動委員の協同を進めた。

今後の大会企画への研究活動委員の関与の範囲を明確にするため、上記の活動と合わせて、研究活動委員会の設置、規約の中身を検討した。

4. 学会誌編集担当理事より:

(1) 日本保健医療社会学会機関誌編集委員会の開催

- ・ 2015年度第1回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会／日時：2015年4月12日(日) 10:00～15:00／場所：国際文献社アカデミーセンター／審議・報告事項：2015年3月末締切投稿論文の査読者決定、『保健医療社会学論集』第26巻1号の編集について、第26巻2号の構成、献本、書評について。
- ・ 2015年度第2回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会／開催日時：2015年5月16日(土) 15:15～17:45／開催場所：首都大学東京荒川キャンパス382教室／審議事項・報告事項：『保健医療社会学論集』第26巻1号の編集について、第26巻2号の編集について、第27巻1号の特集について、等。
- ・ 2015年度第3回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会／開催日時：2015年11月7日 10:00～15:00／場所：国際文献社アカデミーセンター／審議・報告事項：2015年9月末締切投稿論文の査読者決定、『保健医療社会学論集』第26巻2号の編集について、第27巻1号と第28巻1号の構成、献本、書評について。

(2) 『保健医療社会学論集』の刊行とWEBへの掲載

- ・ 2015年8月 『保健医療社会学論集』第26巻1号の刊行。
- ・ 2015年9月末 投稿論文締切 投稿論文・・・ 7本
- ・ 2016年1月 『保健医療社会学論集』第26巻2号の刊行
- ・ 2016年3月末 投稿論文締切 投稿論文・・・ 14本
- ・ 本誌は、紙版刊行後1年半で、WEB版の無料公開に進んでいるが、2015年度は、公開場所の移行に関わって、WEB公開の時期に、若干の遅れが生じた。2016年夏には、遅れが取り戻せる見込みである。

(3) 公正かつ透明な査読プロセスを安定的に運用するための編集委員会体制の堅持と審査期間短縮の試み

2007-2009年度編集委員会から確立されてきた編集委員会の権限と責任の明確化、および、機能の限定化・明示化を堅持し、今後も公正かつ透明な査読プロセスの安定的運用につとめる。ただし、審査割れ時の自動的な処理が、査読期間の長期化に繋がっている面があることに鑑み、C判定+D判定の場合には、第3査読者への委託という展開以外に、編集委員会の審議と合意によって、C判定での継続査読や、D判定での審査終了という形に展開させ、審査プロセスの迅速化を図ることも可能なように、関連諸規程を整備し、WEB上に公開した。

(4) 学会誌のWEBでの公開場所の変更について(CiNiiでの公開から、J-stageでの公開へ)

国立情報科学研究所(NII)のWEB公開サービス終了に伴い、CiNiiでの公開から、J-stageでの公開に移行中であり、2016年夏には全ての移行が終わる見込みである。

(4) 編集委員会主催 論文投稿支援企画の開催について

2016年3月5日に、大阪市内の大阪市立大学施設において「論文の執筆と投稿に関する講演とラウンドテーブルディスカッション」を開催した。井口高志編集委員が担当し、約20名の参加を得て盛況であった。

5. 渉外・国際担当理事より:

(1) 国際学会情報提供

国際社会学会(ISA)第3回社会学フォーラム(2016年7月10日から14日にウィーンで開催)に関する情報提供を適宜行った。

East Asian Social Policy(2016年7月1日から2日にソウルで開催)に関する情報提供を適宜行った。

(2) 国際交流

国際社会学会 RC15(Sociology of Health)と連絡を取り合い、国際的な社会学教員募集情報、社会学徒が犠牲になったフランスでのテロ事件に関連してISAのRC15から世界の社会学徒に向けて送ったメッセージなどを、本学会会員に伝えた。

(3) 社会学系コンソーシアム

社会学系コンソーシアム評議員会に出席し、新会長選挙、シンポジウムに参加した。

6. 学会奨励賞選考委員会より

(1) 園田賞選考

園田賞(学会奨励賞)の選考結果(候補論文1編)が報告され、理事会で承認された。今年度の対象論文は5本(原著4本、研究ノート1本)であった。

7. 総務担当理事より:

(1) 東日本大震災被災者に対する会費減免措置について

減免措置について、2015年度に初めて申請があり、理事会において承認した。総会において次年度からの中止が決議されるまでは継続する。

(2) ニューズレターの配信とホームページへの掲載

97号(2015/4/30)、98号(2015/8/14)、99号(2015/10/30)、100号(2016/2/3)、101号(2016年5月発行予定)の5号を発行し、会員むけMLにて配信を行い、ホームページへの掲載を行った。2015年度より、広報担当理事から総務担当理事に業務を移管したが、業務繁多となり発行がやや遅れたケースも見られた。

(3) ホームページ更新と広報用Twitterアカウントの開設

各担当理事と連携しつつ、内容の充実を図った。昨年度、頻回の更新等により予算超過となった反省を踏まえ、月末にまとめて更新を行うことを原則とした。また会員外への情報発信力を強めるため、10月よりtwitterアカウントを試行的に開設し、理事会承認後はJREC-INの求人情報なども自

動配信している。

(4) ニューズレターバックナンバーのアーカイブ化について

2014年度に収集しPDF化した過去の学会ニューズレターを、個人情報を削除したうえで、学会ホームページに掲載した。1990年1月から2001年3月にかけてのニューズレターは未だに入手できておらず、会員に協力を求める必要がある。

(5) 会員情報の整備と個人情報の保護

名誉会員の推挙や「論集」の査読者の選定など、学会の運営に必要となる会員の個人情報を整備するにあたり、個人情報保護規定を理事会に検討、承認を得た。またいわゆる「マイナンバー法」の施行に伴い、これらの業務は学会業務委託先に委託することを理事会で決定し、委託契約を締結した。また法律上の義務ではないが学会独自に特定個人情報保護規定を定める予定である。

(6) 会員数の動向および新会員の確保

2016年3月末現在の会員数は、通常会員651名、共同発表会員8名、名誉会員9名(2015年3月時点は、順に668名、24名、9名)とほぼ横ばいできているが、生年月日情報が収集できている会員の平均年齢は約45歳となっており、分布としてはやや若手がすくない傾向にある。

今後、少子化に伴う若手会員の減少が見込まれることから、若手会員向けの年会費減免に関する意見も寄せられていたが、今年度はまずは論文作成支援などの試みを行った。年会費の減免については継続課題である。

第2号議案: 2015年度決算・監査報告

日本保健医療社会学会2015年度決算書

2015年4月1日から2016年3月31日まで

一般会計				(単位: 円)			
科目	予算額	決算額	差異	科目	予算額	決算額	差異
収入の部				支出の部			
会費収入	5,464,000	5,042,000	422,000	印刷製本費	1,300,000	1,086,652	213,348
学会誌刊行物売上	36,000	20,928	15,072	郵送費	173,000	181,046	-8,046
広告収入(特別号)	30,000	37,500	-7,500	交通費	710,000	576,472	133,528
受取利息	200	179	21	学会業務委託費	2,843,600	2,801,436	42,164
雑収入	5,000	923,121	-918,121	【発送関連業務】	65,000	90,585	-25,585
				【事務局関連業務】	1,259,000	1,196,551	62,449
				【編集関連業務】	650,000	636,729	13,271
				【大会関連業務】	719,000	729,763	-10,763
				【HP関連メンテナンス】	75,600	75,600	0
				【その他(資料保管代)】	75,000	72,208	2,792
				選挙関係費	0	0	0
				消耗品費	65,000	54,000	11,000
				会議費	40,000	32,659	7,341
				大会・研究会・部会活動補助費	380,000	315,856	64,144
				社会学系コンソーシアム年会費	20,000	20,000	0
				その他(振込手数料等)	10,000	32,778	-22,778
				予備費	4,031,947	0	4,031,947
当期収入合計	5,535,200	6,023,728	-488,528	当期支出合計	9,573,547	5,100,899	4,472,648
前期繰越額	4,038,347	4,038,347	0	次期繰越額	0	4,961,176	-4,961,176
収入合計	9,573,547	10,062,075	-488,528	支出合計	9,573,547	10,062,075	-488,528

園田基金				(単位: 円)			
科目	予算額	決算額	差異	科目	予算額	決算額	差異
収入の部				支出の部			
				奨励賞賞金	50,000	50,000	0
				交通費	70,000	0	70,000
				消耗品費	10,000	276	9,724
				業務委託費	21,600	21,600	0
				雑費	1,000	1,008	-8
				予備費	2,855,456	0	2,855,456
当期収入合計	0	0	0	当期支出合計	3,008,056	72,884	2,935,172
前期繰越額	3,008,056	3,008,056	0	次期繰越額	0	2,935,172	-2,935,172
収入合計	3,008,056	3,008,056	0	支出合計	3,008,056	3,008,056	0

日本保健医療社会学会2015年度会計についての監査の結果、適正なものと認めます。

2016年 4月 24日 会計監査 朝倉隆司 印

2016年 4月 24日 会計監査 山崎喜比古 印

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1.流動資産		1.流動負債	
普通預金	621,475	未払費用	351,420
郵便貯金	621,475	前受金費	358,000
郵便振替	5,049,121	預り金	0
流動資産合計	5,670,596	流動負債合計	709,420
2.固定資産		2.固定負債	
固定資産合計	0	固定負債合計	0
		負債合計	709,420
		III 正味財産の部	
		正味財産合計	4,961,176
資産合計	5,670,596	負債及び正味財産合計	5,670,596

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1.流動資産		1.流動負債	
普通預金	2,935,172	未払費用	0
郵便貯金	2,935,172	流動負債合計	0
流動資産合計	2,935,172	2.固定負債	
2.固定資産		固定負債合計	0
固定資産合計	0	負債合計	0
		III 正味財産の部	
		正味財産合計	2,935,172
資産合計	2,935,172	負債及び正味財産合計	2,935,172

第3号議案:2016年度事業計画

1. 学会長より:

学会長の担当事項、および、理事の分担を超えた全体的事項について提案する。

(1) 第43回大会の開催

2017年度第43回大会を、大会長を村岡潔会員(佛教大学)として開催する。そのための準備と支援を行う。

(2) 2016年度の予算について

引き続き、学会運営上、健全な水準の予備費(繰越金)の積み上げを維持することを目標に、収入と支出の両面にわたり、健全な財政構造の確立に努める。園田基金について、園田賞以外の支出として、編集委員会主催の論文投稿支援セミナー開催補助費を計上する。

(3) 大会への理事会の関与のあり方

昨年度に引き続き、大会引受側の負担を軽減する方策を講じるが、そのための支出については、過大な支出とならないように努める。ただし、今年度は大会開催に係わる委託業務費を大会予算から支出する予定であるため、大会会計が赤字になる可能性も高くなる。ゆえに赤字の際は委託業務費の額を目安に学会本体から補填する。また、研究活動委員会の組織化により、大会開催をこれまで以上にサポートする。

2. 研究活動担当理事より(関東、関西、看護・ケア研究部会):

(1) 定例会・研究部会について

2015年度までと同じ方向での事業の継承・発展をはかる。関東定例研究会と看護・ケア部会との共同開催を行う予定である。

(2) 園田賞(学会奨励賞)選考について

学会奨励賞選考に関する内規を引き継ぐ。選考委員の選出や奨励賞の選定は、従来通り理事会が行う。

(3) 学会大会企画について

大会校の負担軽減のため2015年度大会で導入したプログラム策定のための拡大研究活動委員会方式、RTD および一般演題申請等の業務委託等を点検し充実を図る。また、その他の学会大会企画及び特に研究活動に関わる運営上必要な事項について、大会事務局と連携・協力して実

施する。

今後の大会企画への研究活動委員の関与の範囲を明確にするため、上記の活動と合わせて、研究活動委員会の設置、規約の中身を検討し、協同の具体的内容をさらに検討してゆく。

3. 学会誌編集担当理事より:

(1) 日本保健医療社会学会機関誌編集委員会の開催

- ・ 2016年度第1回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会/日時:2016年4月10日(日) 10:00~15:00/場所:国際文献社アカデミーセンター/審議・報告事項:2016年3月末締切投稿論文の査読者決定、『論集』第27巻1号の編集について、第27巻2号および第28巻1号の構成、献本、書評について。
- ・ 2016年度第2回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会/開催日時:2016年5月14日(土) 14:45~16:15/開催場所:追手門学院大学/審議事項・報告事項:『保健医療社会学論集』第27巻1号と2号の編集について、第28巻1号の特集企画について、「論文投稿支援会」について、等。
- ・ 2016年度第3回日本保健医療社会学会機関誌編集委員会/開催日時:2016年10月15日(土) 10:00~15:00/場所:国際文献社アカデミーセンター/審議・報告事項:2016年9月末締切投稿論文の査読者決定、ほか

(2) 『保健医療社会学論集』の刊行とWEB公開

- ・ 2016年7月 『保健医療社会学論集』第27巻1号の刊行。
- ・ 2016年9月末 投稿論文締切
- ・ 2017年1月 『保健医療社会学論集』第27巻2号の刊行
- ・ 2017年3月末 投稿論文締切

(3) 公正かつ透明な査読プロセスを安定的に運用するための編集委員会体制の堅持

2007-2009年度編集委員会から確立されてきた編集委員会の権限と責任の明確化、および、機能の限定化・明示化路線を堅持し、今後も公正かつ透明な査読プロセスの安定的運用につとめる。

(4) 編集委員会主催 論文投稿支援企画の開催について

2016年10月16日(日)午後に、園田基金の支援を受けて、東京大学本郷キャンパス医学部総合中央館(医学図書館3階333会議室)において、「論文投稿支援会(仮称)」を開催する。樫田美雄・石川ひろの・白井千晶の3編集委員が担当し、事前エントリー・事前課題提出制をとって、支援の実質を確保する(近日公募開始予定)。

4. 渉外・国際担当理事より:

- (1) 国際的な学会の情報提供を、継続して行っていく。
- (2) 国際社会学会(ISA)等と連携し、国際にかかわる情報提供を行っていく。
- (3) 社会学系コンソーシアムからの情報を提供しつつ、この組織の活性化を働きかけていく。

5. 総務担当理事より:

(1) 東日本大震災被災者に対する会費減免措置

減免措置については総会において次年度から中止することを決議するまでは継続する。同様の

大震災の発生時には同様の措置の検討を行う。

(2) ニューズレターの発行及び会員へのメールでの情報発信

ニューズレターを年4回程度発行する。その記事構成、内容についても検討を行う。また、定例研究会や大会関連告知など、時機を得た情報発信をするため電子メールやtwitterを用いた発信も適宜行なう。

(3) ホームページ更新

各担当理事と連携しつつ、会員からの要望も含め必要な更新を欠かさず、内容の充実を図る。またホームページ自体のデザインなどが古くなっており、スマートフォンなどでの閲覧も考慮した新しいデザインへの移行を検討する。

(4) 会員情報の収集の活用、個人情報保護の推進

新設した個人情報保護規定、および新設予定の特定個人情報保護規定を順守し、会員の個人情報等を的確に管理する体制を整え、会員に情報提供を呼びかける。またそれらの情報を活用して、今後の学会活動に活かす基礎資料を作成する。

第4号議案:2016年度予算

日本保健医療社会学会2016年度予算書(案)
自2016年4月1日 至2017年3月31日

一般会計			
収入の部	予算額	支出の部	予算額
前期繰越金	4,951,176	印刷製本費	1,200,000
会費収入 (旧600円×551名、新会員9,600円×45名)	4,822,000	郵送費	173,000
学会誌刊行物売上	24,000	交通費	640,000
広告収入(特別号)	30,000	学会業務委託費	2,039,600
受取利息	200	発送関連業務	75,000
雑収入	5,000	事務局関連業務	1,210,000
		編集関連業務	595,000
		HP関連メンテナンス	75,600
		その他(資料保管代)	84,000
		選挙関係費	290,000
		消耗品費	60,000
		会議費	40,000
		大会・研究会・部会活動補助費	780,000
		社会学系コンソーシアム年会費	20,000
		その他 (振込込み手数料等)	30,000
		予備費	350,000
		次期繰越金	4,219,776
合計	9,842,376	合計	9,842,376

日本保健医療社会学会2016年度予算書(案)
自2016年4月1日 至2017年3月31日

園田基金

収入の部	予算額	支出の部	予算額
前期繰越金	2,935,172	奨励賞賞金	50,000
		論文執筆支援研修会	50,000
		交通費	70,000
		消耗品費	10,000
		業務委託費	21,600
		雑費	1,000
		予備費	0
		次期繰越金	2,732,572
合計	2,935,172	合計	2,935,172

第5号議案: 名誉会員の推挙

規約第3条(名誉会員選考手続き)に基づき、理事会は米林喜男氏を推挙する。